

平成20年 9 月16日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308
E-mail: soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第17号

■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

●インターネットホームページ

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

社会福祉学部開設10周年記念講演会

五木寛之氏の講演に400人



「鬱を大切にしながら生きていこう」と持論を展開する五木氏。

直木賞作家・五木寛之氏の講演会が七月二十一日、本学社会福祉学部(名張学舎)で行われた。「いのちの道」をテーマに開催されたこの講演は同学部の開設十周年を記念して実現したもの。五木氏の人気が示すように約千六百余名の応募が殺到し、二百名に参加券を、百五十名には別室でのモニター受講券を送り、本学関係者をあわせ約四百名が聴講した。

講演は本学社会福祉学部開設十周年記念事業の一環で、「いのちの道」をテーマに約一時間半に渡り催された。

五木氏はまず、「日本人の心が壊れかけている」というのが今の共通認識で

今、求められているのは「強さ」より「しなやかさ」

五木氏は一九三二年、福岡県生まれ。早稲田大学文学部ロシア文学科を中退。六十六年に『さらばモスクワ愚連隊』で小説現代新人賞、「蒼ざめた馬を見よ」で直木賞を受賞した。現在は直木賞や泉鏡花文学賞などの選考委員を務めている。

「鬱」を大切にしながら生きていこう」と持論を展開する五木氏。



草木が茂る様子を「鬱蒼」というように、「鬱」は本来生命力を表す言葉と指摘。

独自の「鬱」感をユーモア交え展開

その上で、「鬱」と「鬱蒼」はまったく異なる「鬱」感をユーモア交え展開

別物であると持論を展開。昨今の暗いニュースを見ていけば沈んだ気持ちになるのは当然のこと

また、この日はオープンキャンパスや、地域と大学との連携について意見交換する「地域連携シンポジウム」も同時開催された。(↓詳細は四面参照)

触れながら金沢市にある兼六園の冬の風物詩「雪釣り」を引き合いに出し、「雪釣りを施すのは柳のようになしな木ではないか」と説いた。

の言葉を、当時の人々は時代の流れと照らし合わせて実感をもって口にしてきたのではないかと語った。さらに、現代はプラ



神宮評議員も務める佐古氏。神職身分は「特級」。

学校法人皇學館理事会は上杉千郷理事長の任期満了退任を受け、八月二十七日、新理事長に佐古一洌氏(六十六歳)を選出した。再興後の館友としては、初めての理事長就任となる。

佐古氏は昭和四十一年に本学文学部国史学科を卒業。同大学院文学研究科国史学専攻修士課程を

修了後、神宮に出任。平成四年より松尾大社宮司などを務め現在に至る。なお、上杉前理事長は、

常任顧問に就任した。任期は共に平成二十年八月二十七日から平成二十二年八月二十六日までで二年間。

略歴	
昭和16年8月	三重県生まれ
昭和41年3月	皇學館大学文学部国史学科卒業
昭和44年3月	皇學館大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程修了
昭和44年4月	神宮出任
昭和52年4月	神宮宮掌

昭和53年3月	神宮権柄宣
昭和53年4月	松尾大社権柄宣
昭和56年7月	松尾大社権柄宣
平成元年12月	神宮評議員(現在に至る)
平成4年3月	松尾大社宮司(現在に至る)
平成4年4月	京都府神社庁副庁長
平成9年4月	学校法人皇學館大学評議員(現在に至る)
平成10年7月	京都府神社庁駐在教師(現在に至る)
平成10年8月	神道講演全国協議会副会長(現在に至る)
平成16年2月	神職身分特級

役員紹介	
理事長	佐古 一洌
常務理事	小串 和夫
常任理事	宗林 正人
常任理事	高城 治延
常任理事	鈴木 寛治
常任理事	高山 亨
常任理事	廣瀬 壽
常任理事	濱田 典保
理事	伴 五十嗣郎
理事	大竹 辰也
理事	櫻井 治男
理事	清水 潔
理事	圓藤 恭久
理事	大島 謙
理事	森下 隆生
理事	前田 國男
監事	山口 昌紀
監事	山中 隆雄
監事	西岡 壽一
常任顧問	上杉 千郷
顧問	久邇 邦昭
顧問	鷹司 尚武

社会福祉学部開設10周年記念 国際学術シンポジウムの開催のお知らせ

日本とアジアの社会福祉のゆくえ ～欧米との比較の観点から～

開催日●平成20年
10月3日(金)・4日(土)
会 場●皇學館大学名張学舎
大講義室(1101教室)

欧米先進国を源流に発展してきた「社会福祉」が日本の文化・社会の中でどのように成長し、地域社会における福祉の土壌を形成していくのか。さらに、アジアのそれとどのように交わり、各地域に根付いていくのか――社会福祉学部では開設10周年を機に公開学術シンポジウムを開催し、地域社会における社会福祉のあり方について、内外の研究者を交え広い比較の視点から問いかける。

皆さまのご参加を歓迎いたします。

10月3日(金)●講演会

- ①「日本型福祉レジームの遠近法」
14:20～ ▶新川敏光氏(京都大学教授)
- ②「社会保障の将来」
15:30～ ▶ジェフ・ファンランゲンドンク氏(ルーヴェン・カトリック大学名誉教授)
【通訳】一圓光彌氏(関西大学教授)

10月4日(土)●パネル・ディスカッション 報告会

- ①スウェーデン「スウェーデン型福祉国家の現状と課題」
10:10～ ▶高島昌二(本学名誉教授)
- ②カナダ「カナダの家族介護者支援の現状」
10:40～ ▶高橋流里子氏(日本社会事業大学教授)
- ③日本「わが国の医療制度改革と新たな医療福祉問題」
11:25～ ▶山路克文(本学教授)
- ④中国「中国の高齢者扶養に見る伝統文化の継承と断絶」
11:55～ ▶王伟氏(中国社会科学院日本研究所社会文化研究室室長)
- ⑤イギリス「英国における福祉状況の変遷と現況：児童保護をめぐって」
13:30～ ▶クリス・ダーキン氏(ノーサンブロン大学都市問題研究所副所長)
【通訳】池田久代(本学教授)

コメンテーター▶宮城洋一郎(本学教授) 岩崎利彦(本学准教授)

問合せ先●皇學館大学 社会福祉学部(名張学舎)

三重県名張市春日丘7番町1番地 TEL0595・61・3351(代) <http://fukushi.kogakkan-u.ac.jp/>

創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付者芳名⑬

創立百三十周年・再興五十周年記念事業募金につきまして、学内外の方々から変わらぬ励ましの声とともにその後も多くのご芳志をいただきました。みなさまのご理解とご好意に対して心より厚く御礼申し上げます。ご協力いただいた方々の芳名を掲載させていただきます。事業活動の一層の充実をはかるべく、今後ともどうぞよろしくお願い致します。芳名掲載につきましては、七月三十一日までの到着分とさせていただきます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金 進捗状況			
平成20年 7 月31日現在			
区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	628	773,227,000	686,437,000
館 友	698	77,029,000	70,724,000
篤 志 家	41	29,250,000	29,130,000
萼 の 会	1,623	65,053,000	65,053,000
企 業	101	59,775,000	56,215,000
本法人関係	244	57,242,000	52,946,000
合 計	3,335	1,061,576,000	960,505,000

宗教界（神社界）

栃木県	安住神社様	百万円
（塩谷郡高根沢町）		
福井県	佐佳枝廼神社様	十万円
（福井市大手）		
長野県	戸隠神社様	二十万円
（長野市戸隠）		
愛知県	城山八幡宮様	二十万円
（名古屋市中種区）		
三重県	敢國神社様	十万円
（伊賀市一之宮）		
京都府	石清水八幡宮様	五百万円
（八幡市八幡高坊）		

館友

大阪府	石切剣箭神社様	一千万円
（東大阪市東石切町）		
佐賀県	祐徳稻荷神社様	三十万円
（鹿島市古枝乙）		
石川県	館友会石川県支部様	三十万円
（名古屋市千種区）		
長野県	高井 栄幸様	二十万円「五万円増額」
（伊賀市一之宮）		
八万一千円「一万五万円増額」		
友野 直樹様		

萼の会（保護者の会）

文学部神道学科	佐藤 信一様	六万円
	高倉 盛克様	五万円
	野々山幹夫様	五万円
	松林 操様	五万円
	阿蘇 惟之様	三万円
	石川 正雅様	三万円
	内田 悟様	三万円
	大坪 丈夫様	三万円
	大野 康孝様	三万円
	岡田 政司様	三万円
	岡田 宗道様	三万円
	奥山 哲治様	三万円
	金丸勘解由様	三万円
	川尻 孝紀様	三万円
	河野 宗清様	三万円
	河野 博人様	三万円
	菅野 寛明様	三万円
	北村 武男様	三万円
	木村 正一様	三万円
	佐々木 等様	三万円
	嶋田 哲弘様	三万円
	下地 幸代様	三万円
	白石 真三様	三万円
	館 栄二様	三万円
	立 泰 廷族様	三万円
	角 尚計様	三万円
	仲江 俊明様	三万円
	中島 恒雄様	三万円
	中田 吉彦様	三万円
	永山 哲弘様	三万円
	成瀬 晴男様	三万円
	野原 壽雄様	三万円
文学部国文学科	岩花 正様	三万円
	岡 英樹様	三万円
	岡橋 正佳様	三万円
	小川 昇様	三万円
	神部 尚弥様	三万円
	小久保耕生様	三万円
	寺田 浩通様	三万円
	平野 昇様	三万円
	堀尾 育雄様	三万円
	松本 孝幸様	三万円
	宮澤 広雄様	三万円
	山下 謙様	三万円
文学部国史学科	芦原 高穂様	三万円
	魚岸 一男様	三万円
	小野 隆久様	三万円
	粕谷 清明様	三万円
	片岡 靖正様	三万円
	加藤美代子様	三万円
	河口 俊敏様	三万円
	柴田 早苗様	三万円
	曾野 隆義様	三万円
	田本 裕規様	三万円
	橋場 敏様	三万円

三重県	加崎 千恵様	二万円
京都府	上田 榮英様	十三万五千円「三万五万円増額」
大阪府	河原田良一様	七万円「二万円増額」
三重県	石橋 明彦様	十万円
佐賀県		
篤志・その他		
三重県	NPO法人萼堂香風様	一万円

本人確認にご協力ください！

平成19年1月4日から、本人確認手続に関する法令の改正により、金融機関において10万円を超える**現金**をお振込みされる場合には、**本人確認書類の提示**が必要となります。提示がない場合には、金融機関では10万円を超える現金によるお振込みができません。10万円を超える寄付金を現金でお振込みの際には、振込用紙とともに来店される方の本人確認書類をご用意のうえ、金融機関の窓口をご利用ください。

本人確認書類 運転免許証、健康保険証、パスポート等公的証明書

法人の場合、登記簿謄本等の提示を求められる場合がありますので、詳しくはお振込みを依頼する金融機関にお問い合わせください。

皇學館大学 問い合わせ先
記念事業推進室 ☎0596-22-6313

和歌山県へ百五十名が集う

平成二十年度 館友会全国大会を開催

八月二十三日（土）、和歌山県那智勝浦町のホテル浦島において約一五〇名が出席して、平成二十年度館友会全国大会が開

催された。早朝の紀伊半島の豪雨のため、JR線が不通となり、総会の開始が十分程遅れた。午後五時十分開会、神宮遥拝、国歌斉唱に続き、物故会員を偲ぶ黙祷の後、小串和夫館友会会長の挨拶、さらに上杉理事長の挨拶では記念事業への協力の御礼や理事長退任の報告があり、伴学長からは、本学を取り巻く厳しい現状の報告、本学へのさらなる協力の依頼があった。その後、神宮大宮司ご代理の井面護様、熊野本宮大社の九鬼家隆宮司様など来賓の挨拶があった。議事終了後、次期開催の静岡県の上貴紀副支部長より挨拶があり、総会が終了した。続いて、「世界遺産と熊野」と題した熊野那智大社の朝日芳英宮司による記念講演があり、熊野の自然崇拜を通して神や自然の恵みを感じ、地域やいのちへの感謝をもつ一度考えるべきと話した。続いて清興として国指定重要無形民俗文化財の「那智の田楽」が披露され、その後会場を移して懇親会が行われた。翌日は晴天の下、熊野三山巡拝が行われた。



総会で挨拶する上杉千郷理事長。



熊野三山巡拝中の館友。

伊勢市と本学との連携を強化

地域の活性化と人材の育成めざす協定を締結



固く握手を交わす伴学長と森下伊勢市長。

このたび本学は文化・教育・学術など多方面で連携を強化する協定を伊勢市と締結した。七月十一日、伊勢市役所において調印式があり、伴学長と森下伊勢市長が協定書に調印。本学と伊勢市は教員の審議会委員への就任や市史編纂などの学術的分野で個別には協力体制があった。今回の協定では担当の窓口を設けることで、①地域文化の振興 ②福祉の推進 ③生涯学習の振興 ④地域の活性化 ⑤環境の保全・再生 ⑥教育の充実などの分野において連携を強化し、地域活性化や人材育成を図ることを目的としている。調印式で伴学長は「学生と市民とのつながりを一層

強いのになりたい。若い学生と地域社会が密接になり、協力しあえる体制が実現できれば」と話し、森下市長も「これを機に行政へ向けてより一層の支援を」と述べた。平成二十年度はスターティングプロジェクトとして市の地域福祉計画へ学生が参画するほか、市の環境関連事業に対する学生との意見交換会を予定。また来年一月十六日には市長が学生へ「これからの伊勢」について語る「市長トークinキャンパス」を開催する。

皇學館高等学校創立五十周年 記念事業 寄付者芳名 4

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業募金活動は、十九年八月、正式にスタートいたしました。これは、募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いているものであります。七月三十一日現在の募金状況は、次の通りになっております。ご協力いただいた皆さまのご理解に感謝申し上げますと同時に、今後のご賛同・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年 記念事業寄付金進捗状況			
平成20年 7 月31日現在			
区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	2	150,000	150,000
企 業	9	1,090,000	1,000,000
一 般 (旧教職員・篤志家等)	14	405,000	405,000
同窓会会員	84	1,970,000	1,970,000
後援会賛助会員	38	620,000	620,000
本法人関係	117	3,370,000	3,081,000
合 計	264	7,605,000	7,226,000

宗教界(神社界)

和歌山県
熊野本宮大社様
(田辺市本宮町)

企 業

三重県
二十万円 (有)古川書店様
五万円 (株)木本自動車様
五万円 山本硝子(株)様

同窓会会員

静岡県
十万円 城山喜世久様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名・金額等の掲載を希望されない方々につきましては、別記とさせていただきます。

■同窓会員／3名 ■後援会賛助会員／1名 ■教職員／1名

愛知県

五万円 松田 雅之様

三重県

五十万円 林 篤信様
三十万円 橋本 豊行様
十万円 橋本 篤子様
五万円 橋本 豊史様

三重県

五万円 橋本 侑子様
二万円 奥山 嘉仁様
二万円 奥山 博文様
二万円 小林 由弥様
二万円 庄山 淳様
二万円 竹谷 充宏様
二万円 堀本 啓介様
二万円 宮向井 悠様
二万円 村田 奈保子様
二万円 村田 真央様
二万円 森 恵理様
二万円 森上 勉様

後援会賛助会員

滋賀県
五万円 山路 薫様
二万円 平田 義雅様
京都府
二万円 海部 毅成様
大阪府
二万円 宮下 光昭様

三重県

五万円 村上安三郎様
二万円 大池 昭司様
二万円 北村 武男様
二万円 串上 達也様
二万円 谷 正直様
二万円 森 昌好様
五万円 松本 悟様

本法人関係

学校法人皇學館教職員

十万円 宗林 正人様
二万円 上野 明里様
五万円 中西美沙子様

皇學館大学文学部との協力連携に期待するもの

～真に地域に根ざす郷土学の創造を目指して～

みえ熊野学研究会 運営委員長
小 倉 肇

平成十二年、三重県側の大紀町以南の紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町の六市町にまたがる熊野古道が世界遺産指定候補として推薦リストに登録されることになった。

私も地域住民にとってそれは正しく青天の霹靂ともいふべき衝撃的な出来事であった。故郷の山野に断続して残っていた石畳道が本当に万里の長城や東大寺などと肩を並べる文化遺産としての価値があるのだろうか、さらに熊野の自然、そこに生き続けてきた私たちの祖先が伝承してきた民俗、文化など果たして世界遺産としての評価に値するものであろうかという疑問がどうしてもぬぐえなかったのである。しかも文化庁に提出する必要があるまとまった環境調査や文化遺産の記録もほとんど無い状態であった。

そんな中で当時の県民局と東紀州八市町

村が共同して作っていた東紀州活性化協議会の呼び掛けもあり、地域で活動していた郷土研究者を中心とし、熊野古道伊勢路の世界遺産登録を目指して、熊野の風土そのものを研究し、その成果を刊行物にまとめ内外に発信していくという目的で誕生したのが「みえ熊野学研究会」である。

発会以来九年間、毎年フォーラムや機関誌『熊野の歴史と文化シリーズ』の発行など熊野古道伊勢路の顕彰と情報の発信に努めてきたが、この会の発足時より多大なご協力を頂いたのが皇學館大学のスタッフの方々であった。特に櫻井治男教授には研究誌の寄稿に、フォーラムでのパネラーにと丁寧なご指導、ご支援をいただいたことに感謝している。また江戸時代の紀行作家鈴木牧之の『西遊記神都詣西国巡礼』に関する資料など、県下の国立大学図書館、県立図書館など、どこに依頼しても備えてな

ったが皇學館大学図書館のみ所蔵され、『鈴木牧之全集』をはじめ貴重な資料を快く貸出を許された。その成果がおそらく県下で初めて活字となった機関誌第一号『熊野道中記』で紹介され熊野古道伊勢路に関する道中記研究に大きな成果をもたらせることとなった。

平成十六年七月「紀伊山地の霊場と参詣道」の一環として熊野古道伊勢路が世界遺産として指定されることとなった。世界遺産指定五周年を来年に控え、本年四月二十一日、熊野市庁舎において私どもの会と皇學館大学文学部との間で今後の地域振興や学術研究などで連携、協力を結んだ。河上熊野市長が立会人となり見守る中での、双方の間で研究者同志が成果を交換し、みえ熊野学研究会と皇學館大学文学部との連携を深め熊野地域の学術的研究と大学の教育研究の進展につなげていくことを期待して



小倉 肇 (おぐら はじめ)
昭和10年生まれ、紀北町紀伊長島区在住。みえ熊野学研究会運営委員長、紀北町教育長、紀北民俗研究会会長、日本児童文学者協会会員。著書「松尾芭蕉」「絵本やくろうの大」「熊野古道伊勢路紀行」他。



授業風景をネット中継 ネットを使ったブレ教育実習

松阪市立第五小学校と交流授業

本学からの提唱で実現

学生に実際の授業現場を知ってもらおうと、インターネット中継で本学教育学科と松阪市の市立第五小学校を結ぶ「交流授業」が七月三日に行われた。インターネットのテレビ会議システムを活用することで、互いの現場の音声や雰囲気やリアルタイムで交換できる点が画期的。教育実習前に行われる「教室見学」の代わりとしても活用できる。

両教室にカメラを持ち込み、授業風景をライブ中継する。

教える楽しみ、難しさを実感

この日の交流授業は午後一時に始まり、本学が

大型スクリーンに映し出されたのは算数「長さをはかる」の授業。内接している三つの正方形の辺をものさしを使って測り、長さの単位や測り方などを学ぶ授業だ。受講した教育学科二年の高木直哉さんは「最初にこの正方形を測りたいか、子どもたちに聞くと、子どもたちが聞くところから始まるんです」と子どもたちの興味を引き出した。



勉強になったと語る高木さん(左)と市川さん。

二人とも「まるで教室の後ろに立って見ているようだった」と授業風景がリアルタイムで見られることに驚いた様子で、今後同様の交流授業があれば参加したいと意欲をみせていた。

らは二年生百五十七名、第五小学校は二年生松組二十八名が参加した。勝美芳雄准教授は「生の授業を観察し研究することで、教育をめざす者の刺激になれば」とこのシステムを提案した狙いを語り、三年次に行われる教育実習を見据え得るものは大きいはずと期待を寄せる。

◇訂正とお詫び◇

学園報第十六号に掲載の皇居勤務奉仕の記事に「本学学生有志による勤務奉仕の歴史は昭和五十一年に遡る」とありますが、厳密にはさらに三年遡り、昭和四十八年十二月に所功助教(当時)が国史学科十期生有志らに呼びかけて実現したのが最初です。また「皇居勤務奉仕の記(清水)」の「宮下掌典」は「掌典補」と訂正させていただきます。

皇大生めざす1500名が来校

2008年オープンキャンパス

学園ニュース



伝統文化を体感してほしいと記念館で行われた煎茶体験。小泉先生の話にじっと耳を傾ける高校生の姿が見られた。



「自分たちの大学の良さ、魅力を伝えたい」とボランティアに参加した学生たち。



開催日が休日にも関わらず、伊勢学舎では百五十名超の学生がボランティアに名乗り

名張学舎では社会福祉学部オープンキャンパスが六月十四日・七月二十一日・八月二十三日の日程で行われた。人気を博したのは「卒業生と語り合う」プログラム。社会福祉士や介護職、保育

卒業生と現場の話を語り合う

士、教員など現在、社会に出て活躍している卒業生から職場や仕事のこと、同学部のカリキュラムのメリットなどを率直に聞くという企画だ。



上/大学会館では学食体験が行われた。下/卒業生の話を熱心に聞く来場者。



「学生パネルトーク」では名張学舎での授業やサークル活動など普段のキャンパスライフの様子が、学生の口からイキイキと語られた。

名張学舎

十名を超える学生がボランティアスタッフとして参加し、盛り上がりを見せた。

コミュニケーション学科四年の山野茜さんと永谷有香さんは「緊張している子もいるので、積極的に話しかけて楽しい雰囲気になるよう心がけて

います」と語りつつも運営側の苦勞を実感した様子。イベントを成功させるにはスタッフ同士の連携が何より大切だと勉強になったと話していた。

オープンキャンパスに来るのとは二回目という宇治山田高校の女子学生はスタッフである先輩たちの明るい表情が印象的と話し、教育学部に入りたいので勉強を頑張りたいと決意を新たにしていた。

ほか、学食を楽しむラッシュタイムや学生によるキャンパスツアーなど多彩なイベントが行われ、興味深そうに見入る高校生の姿が多く見られた。

「2008年オープンキャンパス」が6月から8月にかけて伊勢学舎、名張学舎で行われ、来場者があわせて1500名を超えるなどにぎやかな催しとなった。「こころ小路一絆」を共通テーマにした今年は、前年度を大幅に上回る200名超の学生ボランティアスタッフが活躍。未来の皇大生候補は先輩たちとの会話や多彩な体験型プログラムを通して将来のキャンパスライフをしっかりとイメージできたようだ。

伊勢学舎では六月十五日・七月二十日・八月十二日の日程でオープンキャンパスが開催された。いずれも強い陽射しが照りつける真夏日となり、日傘やハンカチを手にした保護者の姿も見られた。



神道学科の着付け教室には大阪や名古屋など他県の高校生の姿も目立った。

テーマは前年に引き続き「こころ小路一絆」。それぞれの特長がよくわかる学科別体験型プログラムのほかに「茶の湯体験」や「先生になるには塾」など今年初の試みも催され、来校した高校生たちは一様に満足げな表情を浮かべていた。

神道学科の「なりきり神道教室(着付け体験)」に参加した皇學館高校三年の女子学生は「神宮参拝などの行事を通して神

様の存在を身近に感じるようになった。神道のことをもっとしっかりと勉強するために大学へ行きたい」と志望の動機を語り、装束に袖を通すと「気が引き締まりますね」と感激の面持ちで話してくれた。

体験プログラムで入学への思いを強く

伊勢学舎

地域連携シンポジウム開催

「地域創造の未来図」大学と「コミュニティ」の協働を通じて

名張に咲かせよう、福祉の花



地域福祉における皇學館大学の重要性を強く訴える亀井利克名張市長。

五木寛之氏による講演が行われた七月二十一日、地域と大学との連携について意見交換する「地域連携シンポジウム」が同時開催された。

午後一時から始まった同シンポジウムでは伴五十郎副学長をはじめ亀井利克名張市長、石井洋子名張市社会福祉協議会会長が挨拶。続いて地域福祉・まちづくりに深く関わっている四人のパネリストが市内各地区での有償ボランティアや地域交流事業などの取り組みを紹介し、大学とコミュニティの協働などについて意見を交わした。

パネリストのひとり、「名張地区